



### 食材費高騰における学校給食への影響について問う

**答** 物価の状況を注視しつつ、安全・安心、栄養バランスの取れた給食提供に努める



**問** 今後の物価の状況を注視しつつ、食の安全・安心、栄養バランスの取れたおいしい給食の提供に努めていきます。

**答** 全体として上昇傾向です。特に小麦粉と油の価格上昇が顕著な傾向となっています。そのため、月に6回程度あるパン食を減らして米食を増やしたり、価格高騰の激しい食材を他の物に振り替えるなど献立を工夫して、食材費の増額を抑えています。

**問** 現在の費用面や調達状況は。

**答** 1学期分の食材費は、昨年度と比較して5%程度上昇しています。2学期の食材については、昨年度と今年度の食材見積もりで比較しますと、全123品目のうち、値上がりしたものが小麦粉をはじめ58品目、値下がりしたものが海産物をはじめ25品目、変動なしが40品目となっています。

**問** 昨年度に比べてどのような差があるのか。

**答** 小麦粉の価格については「公益財団法人広島県学校給食会」が年間を通じた単価契約を業者と締結しています。このため小麦の価格が暴騰したとしても、本年度内はパンの価格が変わることはありません。

**問** 小麦粉の値上がりによって、パンの価格が来月から上がるということはありませんか。

**答** 小麦粉の価格については「公益財団法人広島県学校給食会」が年間を通じた単価契約を業者と締結しています。このため小麦の価格が暴騰したとしても、本年度内はパンの価格が変わることはありません。

**問** どのように献立を工夫したのか。

**答** 小麦粉と油の値上がり、マカロニサラダをツナサラダに変更したり、揚げ油を数回にわたって使用できるよう、油の痛む献立を避ける工夫をしています。

**問** 子育て支援の一環としても給食費の無償化は有効と考えるがどうか。

**答** 保護者の方に負担した円分の財源を確保しなければなりませんので、慎重に検討していく必要があると思いますし、現在のところは難しいと考えています。



### 江田島の観光事業について問う

**答** 検討を進める。道の駅は計画していない



**問** 昨年の江田島の市内の利用者数は。

**答** 1年間の宿泊者は7965人、温泉施設利用者は全体で1万4877人で市民の利用は4155人でした。

**問** 市民の声として、江田島の利用は難しいとの声を聞く。以前の能美海上ロッジ・シーサイド温泉のうみでは、食事が自由にでき、温泉の入浴も時間制限がなく、これらの点をみても新しくできた施設が代替えの施設になっていないか。

**答** 温泉施設は、利用時間の制約があるほかは、市民も自由に利用できるものとなっています。レストランの利用については、宿泊者限定であり、課題と考えていますので、市民が利用しやすい環境づくりについて前向きに検討を進めています。

**問** 江田島市観光振興計画にある能美エリアについて伺う。

**答** 江田島市や長瀬海岸、旧ロッジ跡地等を含む

このエリアは、観光・交流拠点および海と島の観光・交流ゾーンとして位置付けられており、旧ロッジの跡地の活用を含め、観光客だけでなく、市民も気軽に訪れることができる賑わいの場となるよう、環境の整備や運営についての検討を進めます。

**問** 総合的な観光スポットとして、道の駅の計画については。

**答** 財政的な面を考慮して当初から大規模な施設にするのではなく、小さく生んで大きく育てたい。総合的な観光スポットとしていわゆる国土交通省に登録する道の駅のようなものは計画しておりません。

**おわりに**

昨今の新型コロナ禍において、交流、イベント、観光といったものが各地で中止または取りやめとなっており、しかしながら、違った形の観光等にシフトしており、新たな事業が始まっていると思うが、江田島市も交流人口の拡大をはかる観光事業について、前向きに願います。



### 市民の安心安全を守る消防力の確保について問う

**答** 今後も本市単独で消防本部を維持したい



**問** 直近3年間では、新消防庁舎の竣工のほか、コロナ感染症の感染拡大等があり、消防本部を取り巻く環境は大きく変わったと言えるが、この間も感染防止に努めながら任務に当

**答** 本市としては、消防本部を今後も単独で維持したいと考えています。近年は災害対策本部の設置を要する大規模な自然災害が頻発していますが、消防長を災害対策本部員として配置することで、迅速な災害対応がはかれています。現在、消防本部は、1本部1署1出張所、危機管理課への出向を含めて職員67人の体制で、高規格救急車3台、軽救急車2台、消防ポンプ車3台の他、12台の消防車を配備しています。また、ドクターヘリ対応簡易ヘリポートを10カ所整備するなど、市民ニーズの高い救急活動に重点を置いた体制をとっています。

**問** 近年、激甚化する大規模災害に迅速かつ機動的に対処し、市民の安心安全を確保するには、これからは、このまま単独で消防を維持することが強く望まれるところであるがどうか。

**答** 救急隊の感染防止対策としては、N95マスク、ゴーグル、再使用が可能な感染防止衣、ゴム製の使い捨てグローブを装着し出勤しています。また、感染者搬送用の陰圧式カプセル、通称「アインレーター」により、患者を保護することにもウイルスの飛散を防いでいます。患者搬送後は、ウイルス除去効果の高い「オゾン水」を隊員の装備品や資器材にかけ流し、消毒を徹底して出勤体制を早期に整えています。



アインレーター

今後これらの装備を活用し、安心安全な救急搬送を継続していきます。



### 江田島市観光協会の進捗について

**答** 観光協会の支援を引き続き行う



**問** 令和3年12月議会の観光に関する質問への回答の「観光協会が体験メニューを一括してPRと販売することで、収益へつなげる環境を整うと考えている」「観光推進の中心的存在に成長するように市としてもサポートが必要と考える」の具体的な進捗は。

**答** 今現在、その体制を構築するまでには至っていません。観光協会との調整を進め、効果的に運用できる体制づくりへの支援を続けていきます。

**問** 目的を達成するために現状の観光協会に具体的に求めるものはあるか。

**答** 観光協会自身が、市の特性や観光資源、特産品について理解を深め、誘客につながるメニューを造成する力を自発的に高めていくことが必要となりますので、それを可能とできる事務局体制の構築と、職員の資質向上を特に求めています。

**問** 観光協会は事務局局長不在の状態だが、市としてはどう考えているのか。

**答** 観光協会と本市は、観光振興に向けて、相互に協力を続けていくべき関係であると考えていますので、事務局体制の整備をはじめ、さまざまな場面での支援を引き続き行っています。

**おわりに**

観光協会にどのような役割を担ってもらうかビジョンを明確にして、サポートをお願いする。

**答** 令和2年度途中から欠員となつていますが、有効な打開策を講じるに至っていません。観光協会の存在は、本市の観光振興において重要な位置付けであるとと考えています。よって、昨年度から、本市の交流観光課長を観光協会の業務執行理事に就任させています。事務局長の配置を含め引き続き観光協会を支援していきます。

**問** 今までの観光協会ができていなかったことを、責任者のいない状況で具体的に事業を進めるのは難しいのでは。市の明確な指示が必要と思うがどうか。

**答** 今年度も交流観光課により事務局運営の支援は続けていきます。